

わーく&らいふ

平成29年1月25日 進路指導部 発行

■CONTENTS■

★連載「福祉基礎講座④」「福祉サービス」～A型とB型の違いと注意点～

★進路だよりに関する保護者評価アンケート 結果報告②

連載「福祉基礎講座④」

～福祉サービス A型とB型の違いと注意点～

A型やB型。進路の話の中に良く出てくる言葉です。

これまでの福祉基礎講座（「わーく&らいふNo.8」）で、両方とも「訓練系」の福祉サービス「就労継続支援」の一種であること、「身の回りのことはひととおり自立しておく必要があること」「一般企業での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識および能力の向上のために必要な訓練を行う場であること」は紹介しました。

しかしここで疑問が出てきます。ねらいが同じなのになぜ二つに分けてあるのか？それぞれの違いは何なのかということです。ここがクリアにならないと進路選択の際に判断できないことになりますね。

そこで、今回の福祉基礎講座では、「A型とB型」の違いを紹介します。

就労継続支援 A型・B型の比較

	A 型	B 型
1 雇 用 契 約	○ ※ハローワークを通じた手続きが必要です。	×
2 最低賃金適用	○ ※1時間当たり715円	×
3 契 約 時 間	4～5時間程度 ※学校より終業が早い。	6～7時間程度 ※終業は学校と同じか遅い。
4 送 迎 サ ー ビ ス	どちらも訓練系ですので、 ※応相談 ※送迎があっても、駅までの送迎や範囲を限定した送迎になります。 ※費用負担が必要です。	自力通勤が基本です。 ※応相談 ※費用負担が必要です。 ※送迎対応できない場合もあるので注意が必要です。
5 昼食提供サービス	あるところないところがあります。※費用負担が必要です。	
6 給料(工賃)の実態	最低賃金×労働時間 5～7万円程度 ※労働能力によっては、最低賃金より減額制度があります。	数千円から1万円程度

■1・2 契約と賃金……A型は、就職と同じ扱いです

左表の項目1・2からわかることは、A型はハローワークを通じた「就職」と同じ扱いということです。

つまり、A型は労働力として高い力が要求される場所であるので、最低賃金に見合った労働能力がない場合は利用できないことになります。

最低賃金は、すべての労働者に適用される基準ですので、最低賃金に見合った労働能力とは、障がいのない方と同等の内容や速度で働ける力と考えてください。ですから、実はかなり高いハードルがあるのです。

■3 契約時間…進路選択のポイントの一つ。契約時間の差

左表の項目3の契約時間を見てわかるのは、A型の場合、支援学校よりも早い時間に帰宅するという事です。ということは当然、自宅での留守番等ひとりで過ごす力の育成が必要になります。

一方B型の場合、学校と同等か学校より遅い時間の帰宅になります。帰宅後の生活スケジュールやルーチンの修正が若干必要になるかもしれません。



★卒業後、放課後等デイは使えません。備えを検討しましょう。

ここで気をつけたいのは、卒業後利用する障害者福祉（18才以上対象）には、障害児福祉サービスの「放課後等デイサービス」に相当する、夕方までの時間預かりサービス（日中一時支援）は少なく、しかも原則送迎がないため、その時に向けた家族の生活設計を見直しておく必要があるということです。

たとえばA型の場合、帰宅してからひとりで過ごす時間が増えますので、それに向けた様々なスキルの指導や生活スケジュールの変更が必要です。具体的には、鍵を使って家へ入りきちんと施錠する習慣づくりや、安全に留守番する力や、かかってきた電話や来客への応対等のスキル育成、増えた時間で家事分担等家族の一員としての役割を増やすなど前向きなアイデアもありますね。



B型の場合には加えて、終業がなるべく遅い事業所を選び、帰宅時間をなるべく遅らせるという方策も考えられますね。

始業・終業時刻は、進路選択に向けてかなり重要な要件ですので、早期から対応方法の検討をおすすめします。

■4 送迎サービス…育てておきたい「移動」する力

左表項目4を見てわかるのは、継続支援のA・Bどちらを利用するにも、自力で移動する力が望まれるということです。

自力移動にも様々な手段がありますが、荒尾の卒業生の例で言いますと、徒歩や自転車で長距離移動する力は、とても役に立ちます。

卒業生たちの中には、毎日10kmを1時間かけて自転車通勤する方もおられます。頭が下がる思いですが、本人に聞くと「涼しい顔」。



習慣化すれば、あたりまえの事として定着し、さほどの負担感はないようです。ただし、その基礎として、徒歩や自転車での安全な移動（交通ルールの厳守も含めて）、耐える体力と根気強さは、小さいうちから徐々に育てておきたいものです。

■5 昼食提供サービス

これについてはさほど差はありませんが、費用負担額は事業所毎にかなり差がありますので注意が必要です。

また、学校の給食とは違い、朝から必要なときだけ注文する方式や、メニューを見て選んだりお金を支払ったりする仕出し弁当方式の事業所もあります。ですから、好きなものを選んで意思表示する力やお金を支払う力なども育てておきたいですね。

■6 給料(工賃)の実態

これが一番顕著な差がある内容です。

A型の給料が高いことは、イコール 仕事の難易度、職場からの期待度がかかなり高いことが想像できます。これは最低賃金を支払う場である以上当然のことなので、A型をめざす場合には、家庭教育においても家事分担でたくさんの家事を習得させるだけでなく、難易度・完成度を上げ、任せられるまで質を高めていく工夫が望まれます。

なお、A型の場合は事業所で求める労働力が備わっているかどうか、現場実習を通じて評価していただくのが一般的です。

B型の工賃は、取り組まれている仕事の内容によって大きく違います。平均すれば数千円から1万円程度です。

A型もB型も、少しでも多くの工賃を支給できるよう、仕事の開発などの努力に取り組まれています。

以上、就労継続支援A型とB型の違いや注意点、育てておきたい力について解説しました。将来の進路選択だけでなく、今からお子さんにつけていくべき力を考える上で参考になれば幸いです。



進路だよりに関する保護者評価アンケート 結果報告②

前は、86%の保護者の皆様が、進路だよりの内容を「よい」と評価していただいている嬉しい結果についてご紹介いたしました。今回はより具体的に保護者の皆様のお考えに焦点を当ててご紹介いたします。



問2「これまでの記事で、参考になったものは何ですか？」 参考になった内容 BEST3は！

【第1位】 キャリア教育基礎講座(16人)

- ・キャリア教育基礎講座は、特に毎回何度も読ませていただいています。
- ・学校ばかりに頼るのではなく、家庭での生活が将来へつながることが多いと思います。その中で学校の先生方との関係をとることで子どもたちの生きる力が身につくのではと思います。
- ・「働く大人」に育てる意味。(多数)
「はたらく」=「役に立つ」という文です。そう捉えると我が子にも当てはめて考えやすくなりました。
- ・ストレスやプレッシャーに負けない「耐性」が重要な力ということ。毎日の暮らしの中でコツコツ身につけていければと思います。
- ・進路と言われるとまだまだ先のことだと思ってましたが、中学生ぐらいから準備に入っただけがいいみたいですね。これからしっかり読ませていただきます。
- ・最終的に就労できることが望ましいのですが、まだ小学部という事もあって本人の自立を促すための家族のありかたや役割等についての記事は、今でも取り組める課題なので参考になります。
- ・最近の子どもへの目標立て等に役立っています。
- ・安心感のある家庭の中、子どもに応じた役割を決め、認められて心や体で達成感を自信に持ってもらうこと。ハートフルシンポジウムでの卒業生の現在の内容でした。現在試行錯誤ですが、休日や時間があるときは必ず家での役割をしています。

【第2位】 福祉基礎講座(9人)

- ・福祉サービスの利用の流れ (多数)
→とてもわかりやすく表で示していただき見通しが持てました。
- ・社会資源マップ

【第2位(同率)】 障害基礎年金研修報告(9人)

- ・将来の障害基礎年金取得のためのことが詳しく説明してあること。
- ・研修会の内容と重複する記事もありましたが再確認できて良かったと思う。

<編集後記>

進路だよりに関するアンケート結果報告②から見えるのは、保護者の皆様が、お子様の将来を見据えて、現在の家庭生活をよりよきものにして一生懸命に工夫をしておられること、その思考の過程に、進路だよりの記事がヒントになっているということです。

これはとても嬉しいことです。キャリア教育の推進校として全国的にも評価を受け取り組んできた本校にとって、教育・子育てに関するベクトルの共有が、ご家庭とできていることを実感したアンケートでした。(谷口)

